

日時：2019年12月14日（土）14:00～17:00

場所：東洋大学 白山キャンパス 6号館 3階 6303教室

出席：渡邊芳之理事長，松田英子副理事長，北村英哉，加藤 司，森津太子，小塩真司，
中村 真

欠席：尾見康博，向田久美子

日本パーソナリティ心理学会第134回常任理事会

報告事項

I 理事長挨拶

II 各種委員会報告

1. 機関誌編集委員会（加藤委員長）

(1) 編集状況について

第28巻2号は、予定通り、11月第1週に発行される。第28巻3号は、原著2篇，ショートレポート6篇が採択されたとの報告があった。

(2) 審査状況

以下の表の通り，審査状況について報告があった。

月	採択	審査中	修正中	不採択	取下	投稿数
1	3	15	12	4	0	7
2	2	17	13	3	1	8
3	2	19	9	5	1	7
4	6	10	11	5	1	10
5	2	11	9	4	1	2
6	1	12	6	3	1	3
7	7	10	5	3	1	7
8	0	11	10	0	0	6
9	0	18	10	1	1	12
10	4	12	14	2	0	8
11	3	18	6	3	1	

2. 経常的研究交流委員会（小塩委員長）

(1) 第28回大会企画について

シンポジウム「社会問題とパーソナリティ」（話題提供：栗田季佳，土井理美，三船恒裕，指定討論：北村英哉），ミドルサイコロジストプログラムの開催について報告があった。

(2) 3月企画について

以下の2つの企画を検討中であるとの報告があった。

- ・会員の研究発表による研究交流
- ・研究者としてのキャリア等についての講演

3. 広報委員会（森委員長）

(1) 活動報告について

ウェブサイトの更新，メールニュースの配信などの活動内容が報告された。

(2) 業務分担について

委員の業務分担について，以下の通り，報告があった。

- ・ウェブページ担当：西口雄基，田村紋女，西川一二，中島実穂，沼田真美
- ・メールニュース担当：澤山郁夫，三和秀平，孫怡，坪田祐基

(3) ヤングサイコロジストプログラム（YPP）について

YPP2019 について別紙の通り開催報告があった。

YPP2020 の実行委員を以下の通り組織したとの報告があった。

企画代表：唐音啓（東京大学・D2）

委員：木田千裕（大阪市立大学・M2）

委員：ターン有加里ジュシカ（東京大学・M2）

委員：ケイン聡一（広島大学・M2）

YPP2020 の日程について意見交換を行い，本学会の大会前日まで日本心理学会第 84 回大会が開催されることを考慮して，大会前日（日心大会最終日）の夕刻に，日心大会が行われる東洋大あるいはその近辺での開催を視野に検討することを申し合わせた。

(4) 第 28 回大会デビュー割りおよび大会発表賞について

デビュー割の対象者 22 名への大会参加費補助（計 44,000 円）および大会発表賞の授与（5 件）について報告があった。第 29 回大会の大会発表賞審査手続きについては，28 回大会をもとに進めることとし，審査方法（選択か，採点か）については，広報委員会で検討してもらうことを申し合わせた。

(5) その他

旧学会活性化委員会が担っていた大会発表論文集のウェブ掲載作業費（3 万 5 千円）については来年度から広報委員会予算として申請することを申し合わせた。

4. 学会賞選考委員会（北村委員長）

第 28 回大会時の学会賞表彰，その後の賞金の振込が無事に行われたとの報告があった。

審議事項

I 「パーソナリティ研究」早期公開論文のページ挿入について（加藤機関誌編集委員長）

加藤委員長より，早期公開時からページを挿入してはどうかとの提案があった。メリットは DOI だけでなく，ページまで記載した論文が早期公開されることに加えて，J-STGAE へのアップが 1 回で済むことである。デメリットは，印刷媒体（冊子）のページ数の並びが順番通りにならずとびとびになることであるが（原著内，ショートレポート内では順番通り），

国際的に見ても大勢はこの方式になりつつあるので、本学会においても国内の他学会に先んじて導入してはどうかとの意向が示された。巻号（冊子）の最終頁から次の巻号（冊子）の冒頭ページの連続性は確保される。

審議の結果、同案が承認された。新方式を第 29 巻から導入すること、新方式の説明を第 29 巻 1 号においてエディトリアルで行い、ウェブページにも掲載することを申し合わせた。

II 海外からのゲスト講演者招聘について（小塩経常的研究交流委員長）

第 29 回大会に、海外から講演者（以下参照）を招聘したい旨の要望があった。

・ 招聘候補者 Dr. Jason Rentfrow (Reader in Personality & Individual Differences, Department of Psychology, University of Cambridge)

専門領域：パーソナリティと一般的な心理・社会的環境との関連、個人・環境の相互作用、パーソナリティと音楽・映画・政治志向・地域差

学会からの予算支出は最小限にとどめ、渡航費・宿泊費は外部予算を申請したいとの意向が示され、経常的研究交流委員会予算もしくは大会予算から講演費のみでも支出できないかとの提案があった。審議の結果、招聘を承認することとし、予算については、講演費（5 万円程度）を学会負担として経常的研究交流委員会から予算申請を行い、渡航費・宿泊費（30 万円程度）については、原則、大会負担として外部資金の獲得も視野に入れて今後調整を行うことを申し合わせた。

なお、次年度以降も、パーソナリティ研究の発展への貢献が大いに期待できるなどの意義が認められる場合は、海外からの講演者招聘を前提とする予算化を可とすることを申し合わせた。

III ウェブサイト更新費用について（森広報委員長）

現時点で、約 3 か月分の作業量超過が発生しており、外注先にも努力してもらって対応しているが、予算的には非常に厳しい状況にあるので、来年度については、毎月の委託料を増額してほしいとの要望が示された。現在の契約は、月 1 万円で 30 分の作業となっており、それを超えると、3 時間で 3 万円である。外注業者から、新たに月 1 時間の作業につき 1 万 5 千円のプランが提示されている。審議の結果、来年度は月 1 時間あたり 1 万 5 千円に予算を増額することが承認された。併せて、これを来年度予算に反映させること、予備費は計上しないことを申し合わせた。

IV 第 28 回大会収支報告について

第 28 回大会収支決算について審議が行われ、承認された。

V 名誉会員の推戴について

候補者の推戴について審議が行われ、今後、推戴へ向けて具体的な手続きを進めることを申し合わせた。

VI 日本学術会議会員及び連携会員の候補者に関する情報提供依頼について

審議の結果、依頼に基づき、本学会からサトウタツヤ先生（立命館大学）を推薦することを決定した。

VII 会員の入退会に関する件

事務局より別紙の通り、新入会希望者 13 名（ML 審議にて承認済み）、退会希望者 3 名の一覧表が示され、審議の結果、承認された。併せて、宛先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて、2019 年 12 月 6 日現在、会員総数は 939 名である。内訳は、一般会員 699 名、院生会員 227 名、学生会員 2 名、名誉会員 8 名、賛助会員 3 名。

VIII 会費未納にともなう自動退会について

事務局より別紙の通り、2017 年度～2018 年度会費未納にともなう自動退会予定者（27 名）の一覧が示され、審議の結果、27 名全員の退会が承認された。

IX 第 133 回常任理事会議事録の件

議事録案が示され、承認された。

X その他

次回、常任理事会の日程については、3 月 25 日までの間で、理事長、副理事長、財務担当常任理事、事務局長が参加可能である日時を軸に、調整することを申し合わせた。